

## 学校施設の長寿命化について

### ● 「学校施設等長寿命化計画」について

今後の学校施設の維持管理にかかるトータルコストの削減及び財政支出の平準化を図るため、改築や長寿命化改修といった施設のメンテナンスサイクルの構築につながる計画を策定（計画期間は令和2年度からの10年間）。

(1) 対象施設 51施設 … 小学校(28校)、中学校(15校)、幼稚園(8園)

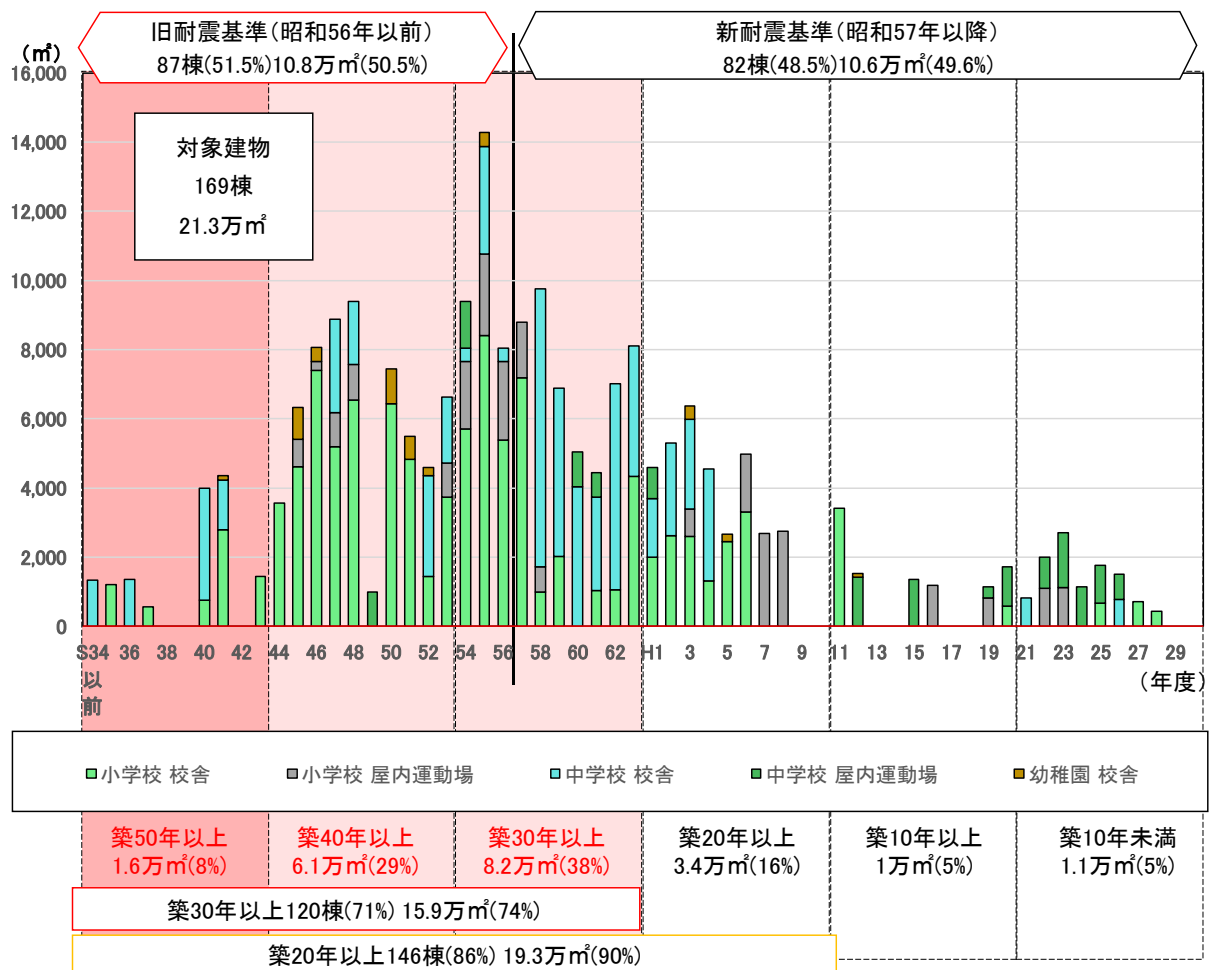
※大津島幼稚園、大津島小学校、大津島中学校を含む。

(2) 学校施設の実態

- ・対象施設51施設には169棟の建物があり、そのうち旧耐震基準(昭和56年)以前に建設された建物は87棟。

- ・昭和63年以前に建設された築30年以上の建物が全体の約7割を占める。

【学校施設の築年別整備状況】



(3) 調査結果

- ①構造躯体は、全ての施設において、長期での活用が可能な水準を確保していることが判明。
- ②構造躯体以外は、5つの部位(屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備)について評価を行い、特に外壁の劣化が進んでいることが判明。



防水層の劣化



防水層の破断



外壁塗装の劣化



軒先の剥落



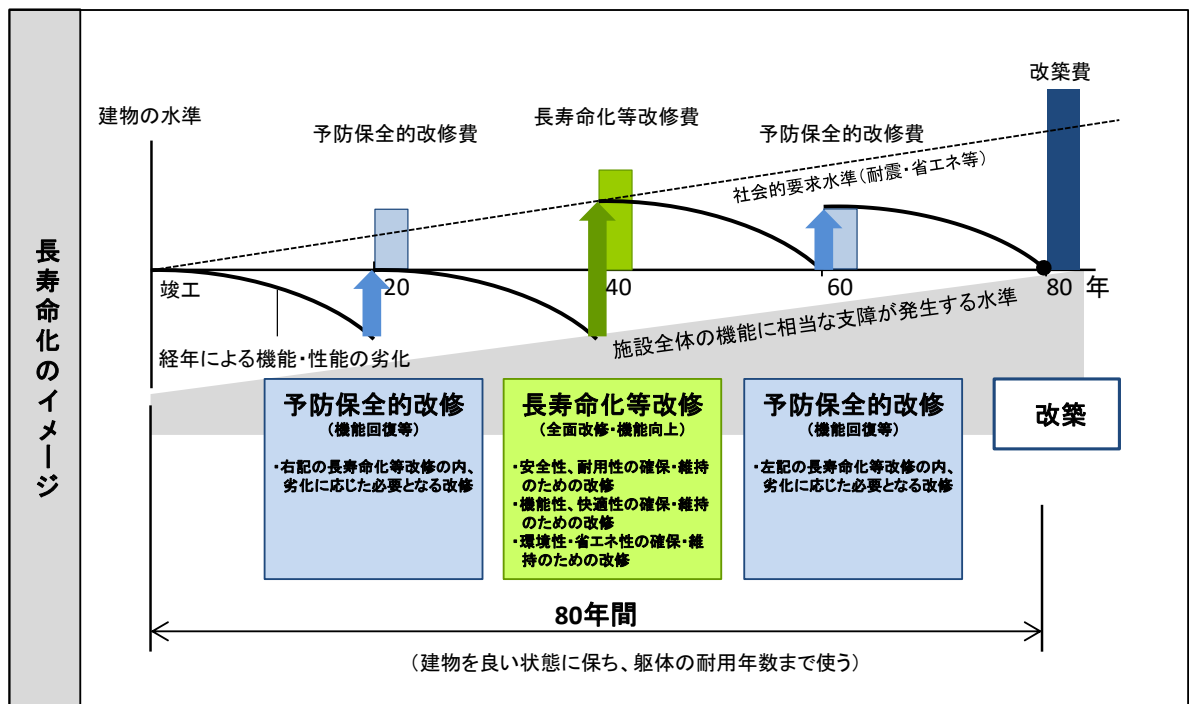
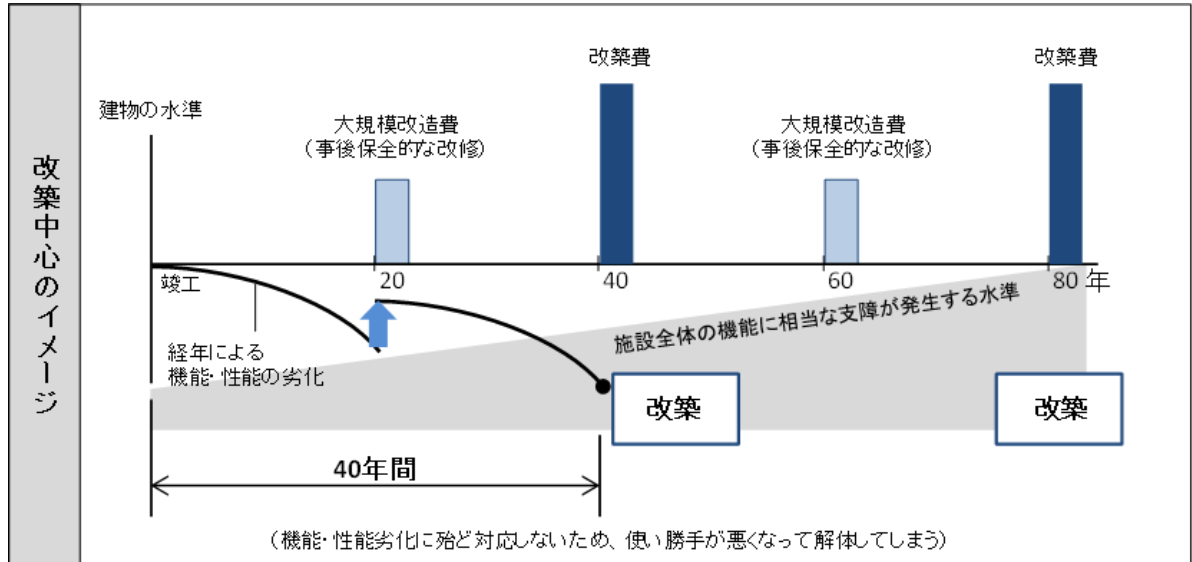
内部仕上げの雨漏り



軒裏の露出鉄筋、剥落

(4) 改修周期の設定

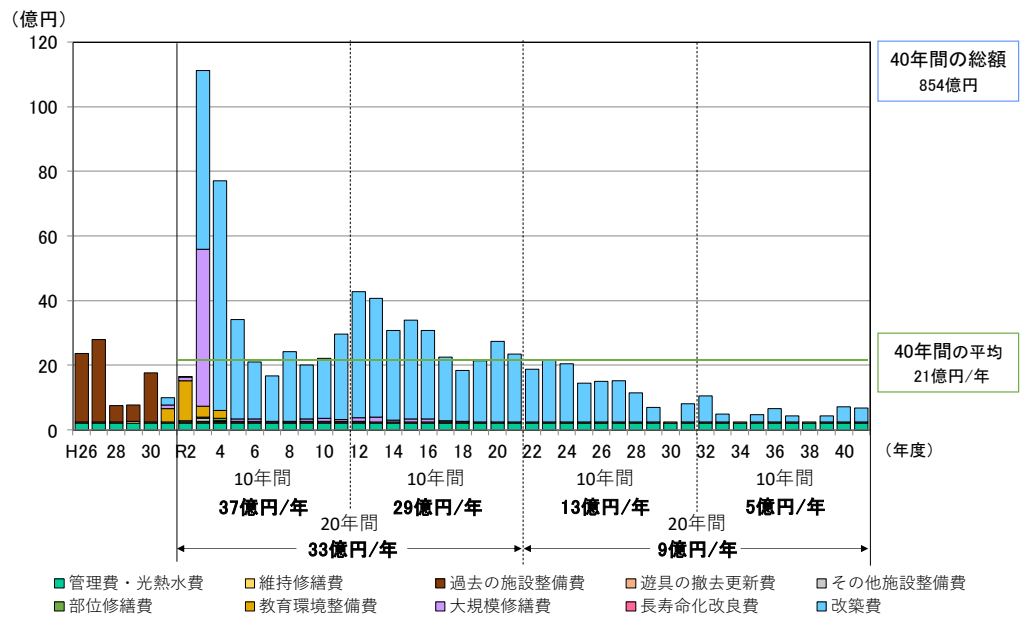
【建物の水準・費用・実施事業及びサイクルの比較】



参考：学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）

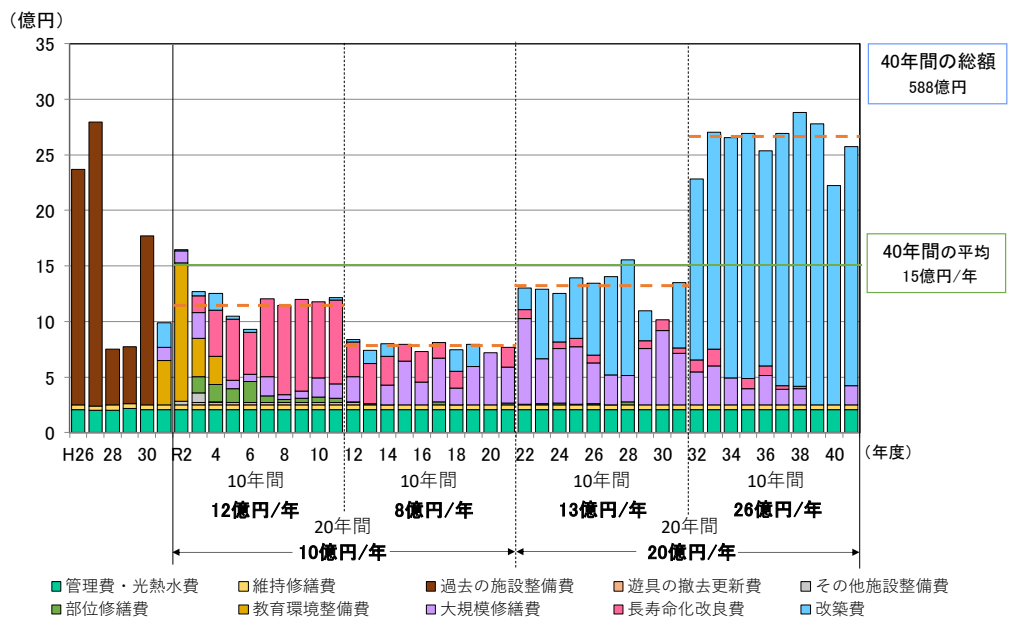
(5) 今後の維持・更新コスト比較

①従来型【40年間の総額が約854億円(21億円/年)】



②長寿命化型【40年間の総額が約588億円(15億円/年)】

※財政負担が生じないように事業費を平準化



(6) 今後の整備と課題

「事後保全型」管理から「予防保全型」管理への転換を目指し、本計画によって把握した改修工事履歴や劣化診断調査等の結果などの情報を基に、改修や改築等の優先順位を定め、コストの削減を図りつつ、計画的に整備。

現状において、雨漏りやコンクリートの剥落などが生じている施設が多く残っており、子どもたちの安心・安全な教育環境の確保や、構造躯体への影響を防ぐ必要があるため、屋根・屋上及び外壁については、優先的に整備を行う必要がある。

## ●学校施設照明設備のLED化について

### 1 学校照明設備の現状と課題

社会全体でLED照明設備の普及が進んでいる中、築30年以上経過している建物が全体の約7割を占めている市内学校施設においては、施設と同様に照明設備の老朽化も進んでいる状況。

#### (1) 学校現場

- ・大手メーカー(パナソニック、三菱電機 等)が蛍光灯器具等の製造を中止しているため、今後さらに全国的に品薄となることが予想される。  
⇒ 普通教室の蛍光灯器具が故障した場合、使用頻度の少ない教室の蛍光灯器具と取替えて対応している事例も増えてきている。
- ・球替えは教職員が行い、器具交換は環境整備員が行っている。  
球切れ事例の増加により、さらに現場の負担が増加する。
- ・照明器具の劣化等により照度が落ち、学校環境衛生基準を充たさない教室が増加。

#### (2) 財政面

- ・国の交付金が見込めず、LED化事業に掛かる財政負担の増大が予想される。
- ・小中学校普通教室への空調設備設置による光熱費の増加もあることから、財政負担軽減の観点からも、照明設備の省エネ化(LED化)による光熱費の削減が必要。

#### (3) LED化事業(案)

- ・対象校：小学校26校(鼓南小はリース校舎であるため対象外)  
中学校13校
- ・器具数：約20,000台(想定) ※ 全ての照明設備が対象
- ・整備方法：リースによる一括整備  
※ 整備期間を短くすることで、早期に光熱費の削減を実現する。
- ・整備期間及び総事業費：要調査



令和3年度改修予定の富田東小学校体育館の照明設備